

2024年度 ミネソタ州立大学マンケート校らとの International Writing Group  
活動報告書

1. 活動内容

- ・参加大学：ミネソタ州立大学マンケート校・カンタベリー大学・グリフィス大学・大阪医科薬科大学等
- ・実施日程：Semester II：2024年9月4日～11月27日  
Semester III：2025年1月15日～3月26日（各Semesterとも隔週水曜日6回）
- ・実施時間：9：00～10：00または10：00～11：00
- ・実施内容：本企画はミネソタ州立大学のHans先生によるコーディネートで、12週間（隔週6回）で国際雑誌に論文を投稿することを目指す企画である。年に2回（1セメスター：6回）開催され、Zoomを用いて隔週1回の頻度で論文執筆に向けて進行された。

2. 参加者からの感想（教員：急性期成人看護学、勝山あづさ）

この度は International Writing Group に参加させて頂きましてありがとうございました。SemesterIIから始めて参加させて頂きましたが、非常に多くのコメントや毎回のアドバイスを頂けて、大変貴重な機会でした。ご支援頂きました International Writing Group の先生方、国際交流委員長の飛田先生、深く感謝申し上げます。

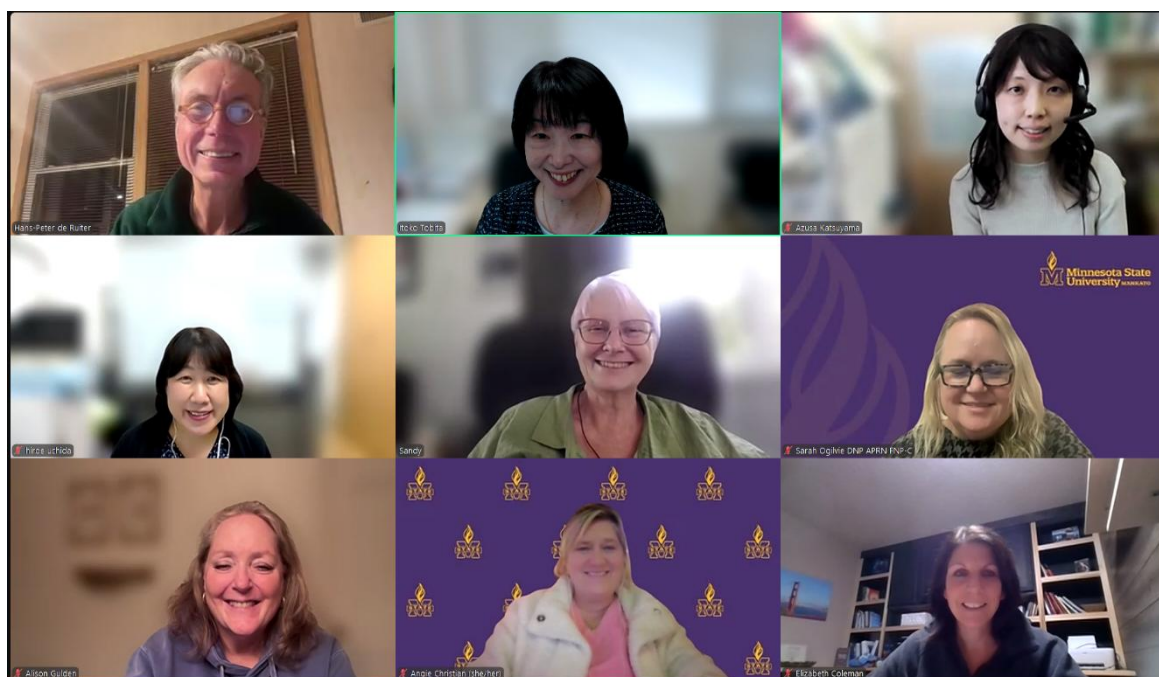
Semester IIでは、国際学会の抄録とポスターへのご意見を主に頂きました。また、Semester IIIでは、別研究の国際誌投稿に向けて、考察のブラッシュアップと、最終原稿のチェックをご支援頂きました。

英文が自然であるかのチェックだけでなく、研究の方法論として記載の漏れがないか、結果としてメインで提示すべき内容の洗練、考察の論理構成、国際的な読者や聴衆に向けて発信する際に入れておくべき視点など、グローバルな看護研究者から丁寧なアドバイスを頂けて大変勉強になりました。ミーティング中のみならず、メールでの添削などもして下さり、こんなに手厚い支援を頂いたことに深く感動しました。

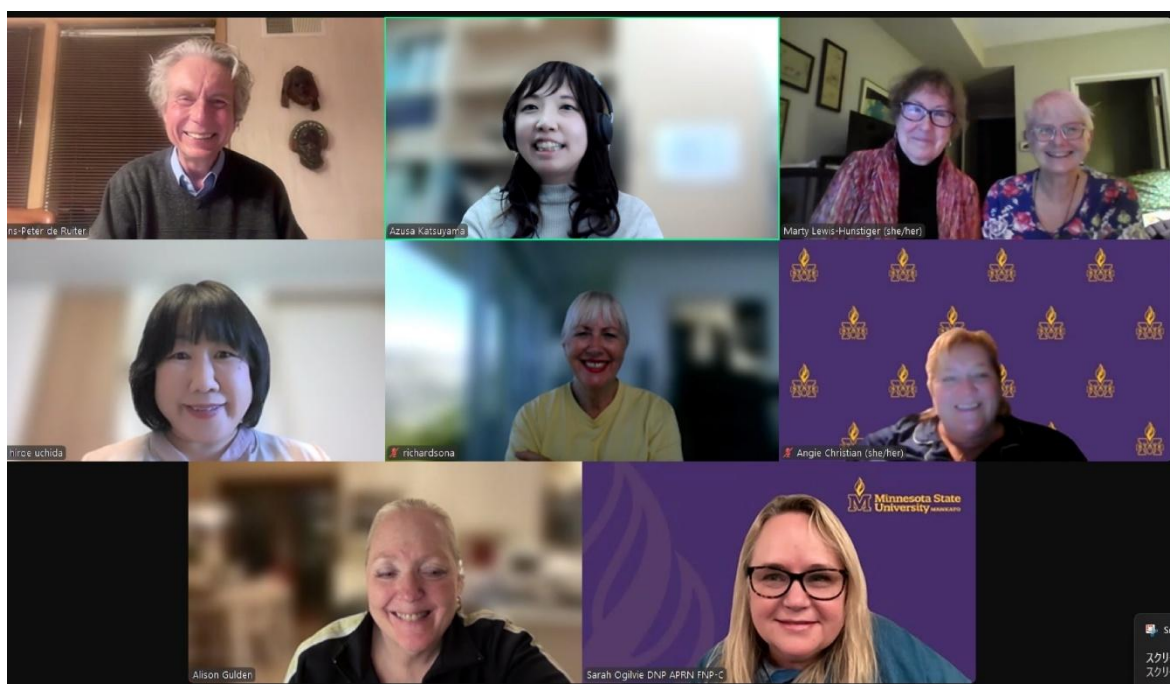
また、Semester IIIの最終日には、数々の国際英文雑誌編集を最高責任者として手掛けておられるMarty先生からもレクチャーを頂き、英語が母国語でない研究者が国際誌に投稿するにはどのようなことに気を付ければいいのか、世界においても看護分野のどのようなトピックは関心を持たれやすいのかなど、非常に具体的かつ論文投稿・執筆にあたって勉強になる内容を教えて頂くことができました。

各回の進行としては、現在の進捗を参加者で共有させて頂くスタイルなので、毎回議題を提出する必要はなく、達成できたことや今困っていることなどを気軽に相談できる雰囲気を作って下さっていたことも安心感がありました。研究について英語で説明することはハードルも高く、当初とても緊張していましたが、国際交流委員長の飛田先生からの手厚く、暖かいコミュニケーション面でのご支援を賜り、期間を通して参加させて頂くことができ、非常に心強く、ありがたかったです。

主催頂いているHans先生からも International Writing Group の皆様から助言頂けるよう調整を頂き、いつも暖かく励まして頂きましたことに感謝申し上げます。



2024 年度 SemesterII Writing Group 最終日 (2024.11.27) の写真



2024 年度 SemesterIII Writing Group 最終日 (2025.3.26) の写真